

# たまがわ つるみがわ さがみがわ 川の市民情報

2020年  
12

国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所RCM事務局 URL : <http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/>  
TEL : 045-503-4015 FAX : 045-503-4092 メール / [ktr-keihia50@mlit.go.jp](mailto:ktr-keihia50@mlit.go.jp)

リバーシビックマネージャー(RCM) : 住民のボランティア活動の一環として、河川管理の支援をしていただくことを目的に創設された制度です

## 鶴見川流域総合治水対策40周年

今年、鶴見川流域※の総合治水対策が40年を迎えました。

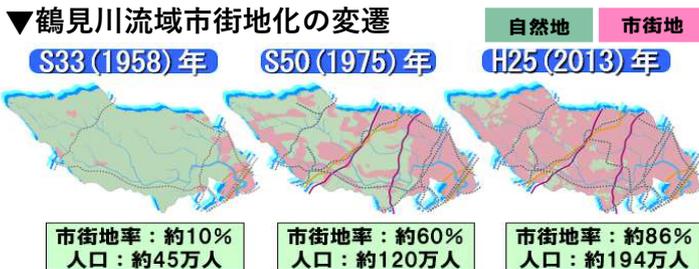
治水対策というと、河川管理者が堤防をつくったり、河道を掘削し、川幅を広げて流量を増やしたりといった河川改修がメインになりますが、総合治水対策とは、それに加えて河川管理者だけではなく、流域全体でも治水対策を行っていかうというものです。

総合治水対策が始まったのは、日本の高度成長期の都市化がきっかけです。

以前は、雨水の大半は地中に浸透したり水田に貯留されたりしていましたが（保水機能・遊水機能といい、その役割を担う地域を保水地域、遊水地域といいます）。

ところが高度成長期から人々が都市に集まってきて市街化が進むことにより、地表がコンクリートやアスファルトで覆われたり、森林や水田が消失していきました。

### ▼鶴見川流域市街地化の変遷



森林や水田が少なくなって、コンクリートやアスファルトに覆われた地表に降った雨は、排水路網の整備とあいまって、一気に川に流れるようになりました。



### 鶴見川流域総合治水対策40年

#### ▲鶴見川流域総合治水対策40年のロゴマーク

その結果、従来は被害が生じなかった中小規模の雨でも浸水被害が発生するようになりました。当時は、市街化のスピードが急であるため、河川改修を行っても安全性が向上しないという深刻な状況でした。また、市街化により川沿いまで家が建ち並び川幅を広くするのも困難でした。

そこで、重点的投資による河川改修と流域自治体などの多数の関係者との連携による流域対策を両輪とした先導的な治水対策が昭和55年（1980年）に開始されました。

これを総合治水対策といい、17の都市河川が指定されましたが鶴見川もそのひとつです。→裏面へ

※流域とは降った雨がその川に集まる地域。例えば地表に降った雨が鶴見川水系に流れ込む区域を鶴見川流域といいます。鶴見川流域は動物のバクの輪郭に似ているので「バクの流域」と呼ばれます。

→表面より 流域対策は以下のようなものがあります。

- ・市街地等決定の際の保水地域、遊水地域への配慮
- ・低地地域（川沿いの低い市街地のような地域）での内水排除施設の整備、貯留
- ・防災調整池、雨水貯留施設、透水性舗装、浸透ますの設置
- ・自然地の保全、盛土の抑制
- ・ピロティ構造などの耐水性建築の奨励
- ・浸水実績の公表、予想区域の活用  
都市部においてさらに高いレベルの治水安全度を達成するために、引き続き総合治水対策を実施していくことが不可欠です。



TV放映のお知らせ

TVかねこのひたいほどワイドの番組内で鶴見川流域総合治水対策40年に関する情報を放映予定です。ぜひご覧ください。

●R3.1.20(水) ●R3.1/27(水) いずれも12:00~13:30 テレビ神奈川

# RCM活動報告 令和2年11月

## 今回は、1件のご報告を頂きました！

対象分野	連絡内容	管轄区間	登録人数	報告人数	報告件数
自然環境 不法投棄・ゴミ 河川利用 ホームレス 占用 事故・事件 構造物の維持管理・修繕 その他	モニタリング 利用者への啓発 住民要望の聞き取り 問題解決の提案 質問・意見・要望 その他	鶴見川下流 鶴見川上流 多摩川下流 多摩川中流 多摩川上流 相模川 浅川 合計	3人 5人 2人 4人 1人 7人 1人 23人	0人 0人 1人 0人 0人 0人 0人 1人	0件 0件 1件 0件 0件 0件 0件 1件

**11月の御報告より** 一部内容を省略させていただきます。皆様からのご報告お待ちしております！

多摩川下流分科会 樺澤進一さまより

毎年恒例の、多摩川漁業協同組合の魚の放流事業をいたしました。

11月10日、鹿児島県で採取したうなぎの稚魚シラスを千葉県香取市小見川町の養魚場で育てた15~20cmのうなぎ、相当な数でした。

また、17日はへら鮎20cmの成魚約20キロ、京浜河川事務所田園調布出張所の前、丸子橋と東海道新幹線の間くらい場所です。しかし心配なのは、無事に魚が育ってくれるかです。

この場所は60年前は貸しボート屋さんが4軒もありましたが、今は大きな干潟が出来、昨年の10月12日の洪水後は、更に干潟が大きくなり、新幹線下流は水のない川になってしまい浅すぎて鯉など全くおりません。昔、ハゼ釣り出来たのですが、浅くてハゼもおりません。

【御報告ありがとうございます。放流した魚たちが元気に育ってくれるといいですね。また昔の多摩川の様子など教えて頂きありがとうございます。】



RCM事務局より

昨年12月の中国で最初の発症者が出てから一年、今年は新型コロナウイルス感染症に世界中が大きな影響を受けた年でした。4~5月頃の街から人が激減した風景も随分前のことのような気がします。

長期出張から戻ってきて、いきなりあの光景を見た人は吃驚仰天したそうです。来年は新型コロナウイルス感染症に打ち勝つ年にしたいですね。 RCM事務局 鈴木、関屋